

<b>第14回 第5分科会会議録（概要）</b>		場 所	新宿区役所 第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成18年1月12日 午後7時00分～午後9時10分	記録者	【学生補助員】 渡辺・竹前
		責任者	区事務局（松浦・池田）
会議出席者：22名 （区民委員：16名 学識委員：1名 区職員：5名）			
<p>■配付資料</p> <p>① 第13回会議録</p> <p>② 歩きたくなるまち新宿（ランドデザイン）への視点（12月15日）</p> <p>③ 平成17年度新宿区区民意識調査速報版訂正表</p> <p>■進行内容</p> <p>1 はじめに</p> <p>2 学識委員より</p> <p>3 グループワーク</p> <p>4 発表・意見交換</p> <p>5 まとめ</p> <p>6 事務連絡</p> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <p>1 はじめに</p> <p>○： 配付資料の確認（3点）</p> <p>配付資料の中で、「歩きたくなるまち新宿（ランドデザイン）への視点」は、前回の分科会で、ランドデザインの視点をポストイットに書いていただき、模造紙に貼ったものを事務局でまとめたものです。</p> <p>本日の進め方については、前回同様中間発表に向けて、グループワーク中心に行ないたいと思います。また、前回1班で議論が足りなかったということで、12月末に自主的にグループワークを行ないました。分科会を始める前に、皆さんに共通認識を持っていただくために、内容について簡単にご報告いただきたいと思います。</p> <p>●： 1班を代表してお話させていただきたいと思います。</p> <p>1班は前回の分科会で、廣江先生からも記憶が薄れないうちに、話をある程度形としてまとめ上げたほうが良いとアドバイスをいただきましたので、12月26日に</p>			

2班の方も1名交え、廣江先生、区事務局をオブザーバーとして、話し合いました。十年前の景観フォーラムの資料がありましたので、当日そこに共通する部分をたたき台として提案し、前回の分科会につなげ、そこから話の枝葉を広げていく形で話を進めていきました。現在、グランドデザインが「歩きたくなるまち新宿」としてありますが、当時から産業では「働きたくなるまち新宿」、文化では「住みたくなるまち新宿」、観光では「行ってみたいくなるまち新宿」といった事が、考え方として分かれています。共通としては「ずっと住み続けていたいまち新宿」ということが、現在のグランドデザインの本当のたたき台となった部分でしたので、資料を提示させていただきました。私は産業を中心に参加させていただいたので、産業を中心にどうあるべきか意見交換しながら、文化、観光の話も進めました。グループワーク全体の意見としては、まず住民主導であるべきだということで、情報を共有化していき、メリットもデメリットも含めて同じ悩みを考え、どうしていったらよいか判断していく。産業、文化・観光を含めた融合性、独自性を持って全体の方向性を見出したい。それから新宿に住む、働く、行ってみたいとなるとはどういうことかと考えた時に、新宿に対してそれぞれがどういったこだわりを持っているのかももう少し表に出してみると良いのではないかと前回の分科会で出ていましたのでそこを掘り下げてみました。新宿にこだわるということは、付加価値があるということであり、新宿の魅力とは何か、新宿という地域ブランドがどういったもので、どう広げたらよいかといった事も話し合いました。ただ新宿ブランドを全面的に押しだしてしまいますと、イコール歌舞伎町ということになってしまいますので、新宿ブランドがネーミングではないのだという意見も出ました。最初の方の分科会で、各自が何にこだわりを持つかということで、それぞれの悩みを出してきたわけですが、中間発表会をふまえ、本当に自分がこだわっているものは何かを絞り込み、分科会の中でそれぞれの問題をテーマに沿ってどう解決に結びつけるかという方向に位置づけるのが良いのではないかと思います。そして2月の中間発表の段階では、こだわる理由や、具体的に夢や悩みを解決に結びつけるにはどうするかを提示できれば良いかと考えます。また、個々のこだわりを一つ一つ提示していくことは出来ないので、全体の方向づけを産業、文化・観光をバラバラにしないでどうグランドデザインに移そうか、景観フォーラムの時から進んできたものをどうグレードアップさせようかといったものです。新宿ブランドという定義についてはちょっとずれる部分もあるかと思いますが、産地の独自性、生産性の効率も考えると、か、お店の人の顔が見えるようにする。具体的には、神楽坂の成功の一因として対面販売等により、お店のキャラクターが感じられるような運営を行うといったことがあり、神楽坂のまちとしての雰囲気を作り出すのに成功しているのではないかと。これは、まちのブランドというこだわりのあるものを、それぞれのまちに作り出すといったことに繋がるのかなと思います。ですから単なる小京都や小江戸などといったものになるのでは

なく、そのまちの独自性を周りに訴えていくといったことが大事かと思われます。そして、オペラシティを文化の中心にするといった話は前々から出ていますが、オペラシティ単体ではなく交通のアクセスといった周辺環境、関連するショップ、食事をする場所といったエリア全体をまとめあげていくような提案をしていくことが必要です。そのためには行政主導の計画も必要ですが、こういうまちにしたいという提案をして仕掛けていくのはあくまで住んでいる人なので、観光だけではなく日常生活、産業を含めて自分達がまちづくりをしていくのだというこだわりの上に立って作り上げていく。そうすれば行政からの押し付けではない自分たちなりのカラーのまちづくりができるのではないかという案も出てきました。抽象的なことを話しましたが、話し合いでは図書館なり消費生活なりに沿った中で共通した考え方として今のような話をしました。他に出た話ではPRの方法として自主メディアを作ってはどうかということで、ミニコミ誌や地域の有線放送ミニFMといったものがありました。あとは区のホームページに検索サイトを充実させてより活動している人たちの情報を見つけやすくする。必要な情報をどこから探してよいのかではなく取りやすくしてあげるのも一つの方法ではないでしょうか。そして、情報発信のネットワークにおいてはどんな人でも不公平感なく情報が得られるように持っていくようなシステムを構築していくべきではないか。さらには図書館を情報発信基地にしたいとか、中央図書館をもっと利便性のある場所に移設するといったようなことも含めて考えて欲しい、インターネットだけではなく紙媒体も大切な情報源なので情報の発信基地には置いて利用できるような仕組みをもう少し構築すべきではないかといったことも出てきました。プロのこだわりとしては、産業の面では職人技とか、商店では顔が見える、本物のあるまち、巷ではアウトレットといったものが流行っていますが原点として本物を知っていないとアウトレットとの比較も出来ないわけですので、「新宿は本物を提供できるんだよ。食べ物も産業も全てが本物だよ」といったことを、もう少しアピールをしていってはどうかでしょうか。新宿は有数の大消費地であり、そのことをもう少し活用する意味では情報発信をもっと上手くする必要があり、そのための仕組みづくりをどう実現の方向へ持っていくかということが重要です。そして、新宿は特に駅が多いので、各駅にインフォメーション・センターを設置してパンフレットを置いたり、ガイドブックを置いたりといったことを提案してはどうか、私鉄とJRでは格差があるそうなので、そこは行政を通して働きかけていくといったことを話し合いました。結論は出なかったのですが、基本的にはこだわりの中で自分がどの部分から皆さんがまとめあげたものに参加、協力でき、また実現に結び付けられるかということで終わりました。以上です。

○： ありがとうございます。橋本先生お願いします。

## 2 学識委員より

◎： まず、前回2班のグループワークの内容について、メモしたものがありますのでそれをおさらいしながら今後どうするかについて触れていきたいと思います。2班では、新宿区のまちの特徴ということ、文人、文化人が個人情報の問題からなかなか公開できないが、そこも新宿区の文化的資産なのではないかという話や、フェスティバル、イベントが個々に盛んに行われている中で、情報文化発信がもっと市民レベルで市民活動の中からやっていけるのではないかということ、それに値するものが周囲にあるのではないかということができました。ただ問題点もあり、お金や活動の問題をどうするのかといった事、なかなか取り付くすべが無い環境状況にあるのではないかというところで終わっていたはずですが、先程の1班の話の中にも共通する点や同じ方向性があったように思われます。私は、班は関係なく皆さんが持ち寄った個々の問題が、意識の中で産業、文化・観光といったものに沿ってまとまりつつあるのかと感じました。それを個々の問題に行ったり来たりしながら具体的にまとめていきましょう。事務的な話ですが、2月19日の中間発表会まで、今日を含め4回しかないので時間の割振りをどうするのかといったことと、具体的に第5分科会として何を提案していくのかということだと思っています。他の分科会はそれぞれの活動をしていると聞いています。第5分科会は産業、文化・観光で新宿区の華になる部分ですので、これまでのものとは違った提案をできればと思っていますし、さらには実現するかは別として何か具体的な形にしていくことが必要でしょう。私自身そういった仕事に携わっているということもありますが、皆さんの新宿区に住んできた思いやキャリアから新たな情報発信をインターネットに限らず継続していくにはどうしたらよいか。今まで参加できなかった人たちをどう取り込んでいくかといった方向性がひとつ挙げられるのかなと思います。中間発表ではありますが、区に対して、第5分科会の産業、文化・観光から縦割りのでなく、具体的な提案を持っていけるように話し合いに入っていただきたいと思います。前回、問題点と良い点を挙げてもらい1班2班共に同じような形で出来たかと思いますが、さらにその改善をするためにはということ、実現可能云々ではなくそのために何が必要かという点での具体性のある議論を2つのグループで深めていただきたいと思います。最終的には二つの班に区分は無いのですが、便宜的に二つに分かれて規模をそろえた議論を進めていただければと考えています。

## 3 グループワーク

○： ではこれからグループワークを始めていただきます。先程、先生から説明がありましたように、前回と同じ二班に分かれて行っていただきたいと思います。前回欠席

された方は、どちらかの班に参加してください。

- ： 中間発表会が近いので、具体的なスケジュールを示して欲しい。また、そろそろ一つの班にまとめて討議したほうが良いのではないか。
- ： 今後の進め方については、グループワーク後にお話しする予定でしたが、皆さんが1つの班で討議をしたいというご意見ならば、そうしていただいて構いません。
- ◎： もう一度整理しますと、全体で行うデメリットは話しが滞って考えるべき情報が細部にまでいきわたらない。また個別に行うデメリットは時間がない中で、情報を共有する時間を新たに持たなくてはならないといった点があります。
- ： 全体で討議する事については非常に賛成なのですが、私たちの1班はまだ少々まとまりに欠けるので、確認のため短くて構いませんから時間をいただききたいと思います。
- ： 今後の時間の配分を教えていただければ意見もまとめやすいかと思います。
- ： 分科会は中間発表会まであと4回ですので、2月3日にはある程度の形になっている状態にしたいと考えています。その中でリーダーを中心として、具体的に相談をしたいと考えています。
- ◎： 後半、リーダーにお話をお渡しして、その時に進め方についても触れたいと思っているのですが、その時にお話させていただくということによろしいですか。判断が難しいところですが、今優先させたいのは議論が中途半端であるという事なのでそこをまず収めて、その後にスケジュールを決めていくという段取りで話を進めさせていただければと考えています。よろしいですか。  
(了承)
- ◎： では進めさせていただきたいと思います。

#### 4 発表・意見交換

- ： お話が続いていますが、そろそろ意見交換に入ります。1班・2班の発表のあと、2月の中間発表に向けて共通認識を持てるよう意見交換したいと思います。司会（リーダー）よろしくお願いします。
- 司会： よろしく申し上げます。2つのグループで話し合ったことを発表してください。
- ： 1班の報告をします。まず私が具体的なフローチャートを作成して、どういうテーマで進めていくかということを含めて議論しました。産業、文化・観光と分けますと話が細くなるので、それらを横断するように何が必要か、ランドデザインとの対比も含めて考えました。結論から述べますと、「まちの駅」のような形で、誰もが利用する場所にインフォメーション・カウンターを設け、インターネット等を利用できるようにする。団塊の世代と言われるシニア層をターゲットとして、まちを案内するボランティア・ガイドを設ける。まちにはお土産やアピー

ルできるもの等があるので宣伝していくということになりました。資料の一番下に「住みたくなるまち新宿」とあるように、高齢者の方が多くなるのでそうした方にとっても住みやすくなるまち、少子化が取り上げられることも多いですから子育て支援のできるまち、新宿区には外国人が多いので、外国の方にとっても住みたくなるまち、さらに高齢社会のなかで雇用危機も見直されるのではないかなどと話し合いました。新宿区は、未来都市の部分と、古くから親しまれている部分があるので、メリハリをつけて、さらに皆が快適に住めるようにどのようなポジティブな発想で変えられるかをテーマに、具体的なアイデアをどう情報化するかについて考えています。

- ： 1班の補足です。前回のまとめを考慮に入れ、こだわりのあるまち、本物のあるまち、「新宿のこだわり村」ということで、染色や印刷などの職人を新宿区民になるように呼んできたらいいのではと思います。商店会連合会でこだわり大賞というものをやっているので活用できると思います。顔の見えるまちという観点でしたら、思い出横丁も残っていますし、ビル街には展望台、レストラン、デパートなどあります。文化・観光でしたら目白、粋なまちであれば神楽坂や四谷があります。そうした特徴を組み入れてはどうかと話し合いました。

司会：次のグループをお願いします。

- ： 2班は、商売が資格になる仕組みを作るという観点でモノレールを提案しました。現在の交通を見ると、地下鉄もこれ以上掘れないほど張り巡らされており、バスや自動車は新宿区に乗り入れるなど規制している。そのような状態で、商売や観光はうまくいくのでしょうか。今までは、地上から始まり地下へ、これからは地上から空中に手段を伸ばしてはどうでしょうか。立川や羽田に行くモノレールは混んでいます。新宿モノレールを作れば、中心部などの交通も緩和され、外国にあるように空中から見ると観光になります。交通、観光と結んで商売したくなるような動きも生まれるでしょう。箱物はもう要らないかもしれませんが、六本木ヒルズ、都庁、お台場などいろいろあります。見えないものよりも、地上に見えるものを作ることにより、観光、交通、商売へと広がっていくのではないかと思います、新宿モノレールを提案しました。
- ： 他に2班の話し合いの中で、新宿区のこだわりと、こだわりを活かすための悩み、それを解決するための日常性、ということまで考えたことを話しました。資料を配付しましたが、表面は岐阜市まちなか博士初級認定試験、裏面は新聞記事ですが新宿区がユビキタス配信の実験スタートという内容です。新宿区のこだわりについては、文化、産業、観光などいろいろ話してきて、キーワードとして、多様性、本物本格、伝統などのこだわりがあるのですが、そうした貴重な情報がバラバラだったり、自分も区民会議で初めて知ったりすることもあります。このようなことが悩みとしてあり、これからはそうした情報を結びつけて発信する、あるいは

発信する者に対して自分からアクセスできる、そうした社会になればいいと考えます。情報を共有化するきっかけとして良いと思ったのが、岐阜市まちなか博士初級認定試験です。岐阜市役所のホームページに掲載されている事柄の中から問題が出され、正解が70点以上だと、岐阜市についてよく知っていますねと認められる試験です。こういった試験を新宿区で行えば、新宿区について学ぶ情報がある程度は共通化できますし、区内や区外から受ければ、区内の方は情報を整理でき、区外の方も新宿区の情報を持って帰る、そういう機能が期待できるのではないのでしょうか。新聞資料については、電柱に携帯電話をかざすと情報を見ることができ。資料第2段目にあるように、区では新宿御苑などの近隣の観光情報のほか、災害時の避難場所などの環境に関する情報が発信されています。ユビキタス・ジャパンの政策は、平成17年版情報通信白書（総務省）の中でも、「u-Japanの胎動」として特集され国でも注目されています。新宿区もその流れに乗って対応しています。NHKの正月番組で、外国人が日本に来るきっかけとして多様性を求めてやって来るという話がありました。バラバラの情報を統一する中で、多様性を活かしていくには、このようなアイテムがあった方がいいと思いました。

司会：2つのグループから発表がありました。1班の発表は発表者の作成したシートを素材に話し合った大体の結論です。2班からも主な意見の報告がありました。2つのグループ間で意見交換をして、分科会全体のまとめになるベースを作りたいと思います。残りの分科会は、今日を入れて4回です。原稿締切まで、日があまり無く、全体の流れを把握したいので区担当者から大まかな流れを説明してください。

○：2月19日の中間発表まで、逆算すると今日を含めて4回です。発表の方法は、パワーポイント等を使い、足りない部分は当日の配布資料とします。資料は40ページ（原稿20枚）までです。各分科会の資料枚数は違うと思いますが、印刷の都合上1週間は必要ですので、2月10日が原稿締切日になります。2月3日には、ある程度の素案が出来ている必要があります。あと2回の分科会で、共通認識のもとに具体的な提案を話し合います。2月3日の段階でたたき台を作って示していかないとまとまらないかと思います。タイトなスケジュールですが、頭の中に留めてもらって話し合っていただきたいと思います。2月16日は、発表に向けたリハーサルや最終確認のための分科会になると思います。リーダー・サブリーダーや中間発表会ワーキング・グループだけで準備するのは大変ですので、皆さんが得意な分野で、それぞれ役割分担をしていただきたいと思います。

司会：私は次回の分科会は所用で欠席しますが、他にも欠席する方がいるかと思います。流れを考えると、自主的な会合を開く必要がありますので、後で具体的な提案をしたいと思います。では、1班2班の発表について、意見交換をお願いします。

補足でも結構ですが、1班2班で共通認識を持つ事を念頭をお願いします。

- ◎： 補足します。2班のキーワードは情報発信です。具体的にどうするかを考える中で、インターネットなどの漠然としたものがあり、そろそろ具体的な案を考え、たたいた方が近道ではないでしょうか。産業、観光、文化に関する資格認定制度を考える、またユビキタス・ジャパンように政府がお金を出しているものを利用する等です。第5分科会は、問題を解決する対策でなく、何か華のあるアイデアを考えようということでモノレールの案が出されました。箱物行政は難しいようですが、神戸などでは小さなモノレールが機能しています。新宿の西口とオペラシティの間の距離は中途半端で、バスも徒歩も適さないので、モノレールを考えました。この2班のアイデアに、1班はどう思いますか。もしくは他の具体的なアイデアがあったらお願いします。

司会： この意見交換の記録をとっていただきたいのですが、委員の中からどなたかお願いできますか。(指名・・・了承)

- ： 提供した資料は角筈区民センター付近の地図です。平成16年度の都市再生モデル調査ということで、国からお金をもらい、まちづくり組織からの提案の一つです。児童図書館や高齢者住宅についても載っています。この地区単独ではなく、西新宿3丁目から西口まで、安心して歩けるまちにしたいというきっかけになると思います。この中で、都営住宅は百人町に移るという話もでています。西新宿3丁目、4丁目など考えると、LRTなどもあればいいなという意見が、都市計画の専門家からも出されています。地下道の話もでています。20年30年後について皆さんが意見を言えば、区民会議が世の中を動かすパワーになると思います。

司会： 1班・2班で共通のテーマが情報です。具体的にまちなか博士認定試験などがあります。1班の方は、情報というテーマについてどう思いますか。

- ： 1班です。産業、文化、観光を融合させるために、情報の垂れ流しではなく、受け手にどういう情報を発信するべきか、情報のネットワーク化が必要でその延長線上に、駅を使ってアンテナつまりインフォメーション・センターを設置するアイデアを出しました。岐阜でもまちなか博士というものを実際にやっています。12月26日の自主グループワークの際に、新宿まちなか博士というアイデアを出しました。他の委員もまちなか資料館について言及していました。産業、文化・観光を含めて、知識のある方を活用し、人とのネットワークを構築することも情報発信だと思います。必ずしもITだけに頼らずにやっていく。ITが進むほど紙資料が増えるという意見もありました。どのメディアを通じて情報を求めるかは、受け手側の判断です。インターネットだけに限定せずに情報をいかに有効に引き出して活用するか、これから具体化していきたいと思います。

司会： 共通認識を作ることを考えると、情報発信というテーマがあります。2班から出



た岐阜の例について言えば、神楽坂でも観光ガイド認定制度をやろうとしています。来訪者にバラバラの認識を伝えるよりも、情報を整理していく側面があります。人と人のネットワークを使った情報発信も重要でしょう。情報で結論を出すのは難しいでしょうが、この点でもう少しフォローしてもらえますか。それとも情報にこだわらずに進めましょうか。それでは、情報を含めて1班2班の意見交換をお願いできますか。1班から情報の担い手として図書館の話はありますか。

●： 図書館というと、まだ今ある図書館のイメージですが、これからは従来のアナログ紙文化と、ITデジタルの情報を、住み分け、共存できる情報センターが必要だと思います。そのために、誰でも住みたくなるまちという観点からも、お年寄り、障害者、子どもが歩いていける距離に図書館が必要ではないかと地域で運動をしています。図書館が建てられない場所では、別の手段で身近な図書館のようなものが必要だと考えています。

●： これは10年20年後の新宿への願いであるのですが、現実の中央図書館を見るとそのままがいいのかと疑問に思うので提案しています。もう一度、本当にきちんとこのままでいいのか、考えてみようという提案をしています。

司会： たまたま、ビジネス支援図書館推進協議会の人と話しましたが、2、3冊本を読んだ知識では、アメリカでは図書館がベンチャービジネスの支援をしているが、日本の図書館は本を読むだけの感じです。これからは静から動へ変わっていくのではないかと、それを地域でどう行うかという見方があります。2班から何かありますか。

●： 最初の話で、こだわりが出ていました。新宿区の一般論ですが、特色あるまちづくりにはこだわりは重要だと思います。必ずどのような施策にしても、住民あつての区政であるという基本的な理念の裏づけが必要でしょう。

司会： 時間が来ました。スケジュールの確認をしたいと思います。今日は、かなり共通のベースが出てきた気もするし、足りない気もします。分科会に加えて、自主的な会を開く必要があります。誰がどのような形で開くか考えたいと思います。原則として1班2班関係なく、誰でも参加できるものであるべきでしょう。各班から一人ずつ出してもらい、皆さんへ声かけしてもらうのはどうでしょうか。

●： リーダー、サブリーダーを中心に行うほうがいいと思います。

司会： では、リーダーとサブリーダーで、日程とテーマを相談して、皆さんにお知らせするという形でどうでしょうか。特に3人だけにこだわりません。(了承)

## 5 まとめ

◎： あと数回しかないなので、ワーキング・グループでまとめていき、1班2班関係なく、提案していきましょう。これは最終提案でもないなので、まだこんなことがあ

るなどのアイデア、皆さんの思う問題点を盛り込んでいきたいと思います。具体的なアイデアをどう盛り込むか、皆さんの協力が必要です。決定しているリーダー、サブリーダーに加えて皆さんの協力が必要なので、お願いします。

## 6 事務連絡

○： ありがとうございました。  
連絡事項ですが、区で新宿区の著名人リストを作成中です。事務局で持っていますので、参考資料として見たい方がいましたら申し出てください。

### \* 自主グループワークについて

- ・ 1月18日（水）19時～ 場所未定 後日通知

### \* 次回分科会の日程について

- ・ 1月24日（火）19時～21時 新宿区役所第一分庁舎7階研修室

以上